

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-142	22-321	慶應義塾大学 加藤眞三
題名 (原題/訳)		
Acupoint stimulation for alcohol use disorder: A systematic review and meta-analysis. アルコール使用障害に対するツボ刺激： 系統的レビューとメタ分析。		
執筆者		
Chen H, Feng J, Chen L, Huang J, Zhang P, Chen C, Lu L, Tang C.		
掲載誌		
Medicine (Baltimore). 2023 Jan 6;102(1):e32614. doi:10.1097/MD.00000000000032614		
キーワード		PMID
アルコール使用障害、針治療、ツボ刺激、メタ分析		36607868
要 旨		
<p>背景： アルコール使用障害 (AUD) に対するツボ刺激の効果を評価すること。</p> <p>方法： AUD は世界人口の健康を脅かす複雑な疾患である。ツボ刺激は、ツボに刺激を加えることで副作用なく治療効果をもたらす一種の療法であり、AUD 患者に広く用いられているが、その有効性については依然として議論の余地がある。電子データベース (Cochrane Library、EMBASE、PubMed、CNKI、VIP、Wan-Fang) を用いて、データベース開設から 2022 年 9 月 30 日までの AUD に対するツボ刺激に関するランダム化比較試験 (RCT) を系統的に検索した。Review Manager 5.4 ソフトウェアを用いてメタ解析を行った。連続データ (尺度) は、平均差 (MD) または標準化平均差 (SMD) と 95%信頼区間 (95%CI) で表した。研究の方法論的質は、臨床試験のコクランリスクオブバイアスツール (Cochrane risk-of-bias tool for trials) に従って評価した。アウトカムに関するエビデンスの確実性を評価するために、推奨の評価、開発、評価の等級付けが用いられた。</p> <p>結果： 1097 人が参加した合計 16 件の RCT が組み入れられた。心理療法または薬物療法単独と比較して、ツボ刺激と他の種類の療法の併用は、アルコール渴望の緩和において優位性を示し (SMD = -1.09, 95% CI = -1.40 to -0.77, df = 2, P < 0.00001, 推奨の評点 評価、開発および評価確信度は非常に低い)、(SMD = -2.25, 95% CI = -3.17 to -1.34, df = 3, P < .00001、確信度は低い)、アルコール離脱症状の重症度 (MD = -1.21, 95%CI = -2.32 ~ -0.1、df = 2、P = 0.03、確信度は低い)、不安の改善 (MD = -3.41, 95%CI = -4.06 ~ -2.76, df = 4, P < 0.00001、確信度が非常に低い) と抑うつレベル (MD = -3.27, 95%CI = -4.92 ~ -1.62, df = 4, P = 0.0001、確信度が非常に低い) を改善した。さらに、渴望の軽減においても 4 週間の治療コースでより高い効果が認められた (SMD = -2.18, 95% CI = -2.61 to -1.75, P < 0.00001、確信度低い)。</p> <p>結論： ツボ刺激とその併用療法は AUD 症状をより効果的に緩和する可能性があり、治療期間は 2 週間以上に設定すべきである。しかし、含まれる RCT の質が低いため、今後さらに確認するためには質の高い研究が必要である。</p>		